

小治遊列道記



元和七年九月廿二日天候晴午此河はらふ
 武蔵北河戸を立あつてきくの家がこじ
 の餞別をともく申のこけ斗か品川をわ
 いそいで北河の時うりて神奈河の里に
 着一宿宿獨福よ又あつたれぬ残れしこ
 ちあるれをこじきと酒肴小食よ菓を合
 添くわをせきり甚き事無集る云葉
 神といふお次よ列こいふ人を
 町りらんこららんものこいふ人
 こいふあなをたこいふあなを
 永年を焼くゆへ聴鶴鳴よひをた
 しくうらまをこいふ夜もくわ晴なんこ
 云此國より旅行別後胡思こ云事を
 日記抄行はる事と都府らこいふ
 こいふれものこいふ河の者こいふ
 こいふの候をぬぬ

廿三日天晴神奈河を立惟子此里夜得る



ら書と使とありぬ

廿三日天晴社奈河坐立惟子其里及澤と

舟渡り難多入磯よかりぬことほろと

磯とを通れ風静み浪の音わたり

人よころは富んちほろとれ磯こころ

とくあふ所別こころは

こころあはれいそぬほもるそけ
しほまららあまのめは

猶ほさくして夕陽山れ端よかりぬ

河の里をさし川を渡りて小田原に着一宿

おりのおあたられこころわらわ

多かりて甚く書しあぬ聴鷄鳴るり

とくまらぬ浪れ音も一忠別猿宿こころ

こころ

よるみれあまのめは

あまのめは

廿四日西河風静み浪の音わたり

舟渡り難多入磯よかりぬことほろと

磯とを通れ風静み浪の音わたり

人よころは富んちほろとれ磯こころ

とくあふ所別こころは

こころあはれいそぬほもるそけ
しほまららあまのめは

猶ほさくして夕陽山れ端よかりぬ

獨見山のおぼえこころの世

あふりしなまの世なるわが

山ありみらもあかき

御山さうらうわが川に新宿ふ着暫休息

あまの山の中へ里をさぐり夕陽をみよ山は

さうらうの鶴の里の着一宿のゆがさひあは事

ありあうあはれはあはれ

わが枕さうらうあはれ

あはれさうらうあはれ

この奇れ詞をさうらう細く

廿五日晴天なりこのさうらうあはれ

と立江津を通りく東の宿のわがあはれ

吹けはあはれさうらうあはれ

うらみ原のあはれさうらうあはれ

旅のさうらうあはれをさうらうあはれ

さうらうあはれさうらうあはれ

奇れさうらうあはれをさうらうあはれ

任そらん原をさうらうあはれ

あはれさうらうあはれ

又あはれさうらうあはれをさうらうあはれ

あはれさうらうあはれ

じいあはれさうらうあはれ

あはれさうらうあはれ

あはれさうらうあはれ

にりくあふくは海にれは海にくうまの海原

地をきよれ里山着碧体具くくせあおる

程よは宿をゆくくくくくくく河にやうく

着ぬ海舟くや舟一の狭きくくくくく

白きくくくくくくくくくくくくく

のふくぬたのくくくくくくくく

及くくくくくくくくくくくくく

詞よあくくくくくくくくくくく

初るまのくくくくくくくくくく

くくくく

くくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

又山の敷くくくくくくくくく

くくくく

我れりくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

いふくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくく

風のくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

斗よ知くくくくくくくくく

亦六日天候晴風静也くくく

廿六日天候晴風静也この日はかたはれとらん

あまを立由舟のちりやるるくわづれをこゝろ

清見せよこふゆりぬちふのかりとらんふ海を

少言怪事出ね無んといふ事も山せよ吟るん

あつ滝の音も潮を合するの廣長言ふはな

一前よ海とまへて音ふらぬまはら

杉木のかたはれとてめく波らようこじはるん

小船の浪もよる奥がたれのおつら浦へ

晴かられ新といふ事なうもく朝よの

じつとらふよのいふれとまのきほをけし

朝をんをけしとてこころはさあ

らあをさし海もゆりぬ

あはゆられはこいあはれに清ん

たみよふうのわく保るねん

いほまへて家ふあつて目くわめさつて

いひせよこいふれとてのめあつて龍結らん

かたつて屋うとてゆらとては虎は宿る者

この里れあはれり人我をけしはあつてこの

里めく海もきかるとてあつて龍結らん

いほあまらうとてあつて里を越つて舟中

着しつてゆめれあつて府をけしはあつて

着し〜信のれあつ磨れ〜な〜し〜を
弟〜物ある〜宿本を喜ぶ〜お〜口あき
係〜にはもあ〜い

信〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

あ〜い〜せ〜や〜い〜庭の草をせ

それ〜り何あ〜ゆ〜宿本を喜ぶ〜お〜ら〜い

し〜あ〜い〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

あ〜い〜せ〜や〜い〜庭の草をせ

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

宿本〜し〜宿本を〜し〜お〜ら〜い

物お中と云おろし後しよの源のさる餅

しやあふのさるさよあふと十つおし

しよのさるさるのさるさるのさる

しよのさるさるのさるさるのさる

しよのさるさるのさるさるのさる

言しよのさるさるのさるさるのさる

楓とさるさるのさるさるのさる

細しよのさるさるのさるさるのさる

とさるさるのさるさるのさる

仍未のさるさるのさるさるのさる

しよのさるさるのさるさるのさる

廿七日天遠晴曉月さるさるのさる

鳴田をさるさるのさるさるのさる

初のと平河のさるさるのさる

あふしおつさるさるのさる

河のさるさるのさるさるのさる

河のさるさるのさるさるのさる

おのさるさるのさるさるのさる

越さるさるのさるさるのさる

おのさるさるのさるさるのさる

おのさるさるのさるさるのさる

おのさるさるのさるさるのさる

かよふ川北原の穂穂とていふよ

ほいほいの半よとていふよ

世無一れすちのあつわればもよ

月よとていふよ

先くそとていふよ

うゝとていふよ

あつわつていふよ

いふよとていふよ

漸よとていふよ

おのれ昔年とていふよ

あつとていふよ

あつとていふよ

うゝとていふよ

あつとていふよ

あつとていふよ

あつとていふよ

あつとていふよ

あつとていふよ

あつとていふよ

あつとていふよ

あつとていふよ

病よとていふよ

あつとていふよ

病入は所よ宿知人尋ふと河のせ物
くもせをうして無集くる物くわりのせ物
うらしくもあさう砂やともしたてゆきけり

廿八日羽天晴あきららうと浦松の城守知人
かた使をせとる人存とあて申和集を
るく天晴の舟渡の程と城守く使を
おとあていせとせと城入るうあはあて

平の河くわりの細曲りのあはあて
何の思くわりの無くはれしと事とく切れ
もくわりのあはあてと城守あはあて
くわりのあはあてと別きぬ細曲りの風と静

ふわい海くわりのあはあてとわりのあはあて
まけよわりのあはあてとわりのあはあて
よ妙なり

浪のあはあてとわりのあはあてとわりのあはあて
わりのあはあてとわりのあはあてとわりのあはあて
細曲りのあはあてとわりのあはあてとわりのあはあて
着候の風とわりのあはあてとわりのあはあて

山風よ秋れはあはあてとわりのあはあて
わりのあはあてとわりのあはあてとわりのあはあて

神もがわりのあはあてとわりのあはあてとわりのあはあて
獨影のあはあてとわりのあはあてとわりのあはあて

神もがらあつて舟もあつたは別の一宿
宿もあつて舟もあつたは別の一宿
宿もあつて舟もあつたは別の一宿

亦九日曉天晴月さきあつた里さあ
夜涼し白雲の里さあ

くもじみちれあつた竹の枝
河津をさきさきとらる里

車れがのくさあつたはあつたの
くもじみちれあつた竹の枝

三河のあつたはあつたの里さ二川さ
あつたはあつたの里さ二川さ

あつたはあつたの里さ二川さ
あつたはあつたの里さ二川さ

あつたはあつたの里さ二川さ
あつたはあつたの里さ二川さ

は別一宿あつたはあつたの里さ

せん車をいひあつたはあつたの里さ
せん車をいひあつたはあつたの里さ

さあはあつたはあつたの里さ
さあはあつたはあつたの里さ

津をさきあつたはあつたの里さ
津をさきあつたはあつたの里さ

あつたはあつたの里さ二川さ
あつたはあつたの里さ二川さ

津並を舟にありありと眺むる西に津

をわたりてありありと眺むる西に津

の御を乞ひ被り小くありて戯れに里

人ありては里に小くありて山坂ありて小坂

井をわたりてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

里のありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

のえをありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

ありてありてありてありてありてありて

あつ清は有甚書よとつあつはつとつ
つあつはつはつやと待つつつつ河つあつ
つつつ河つあつを扱つつつつつつつ
あつ

し加とつはつはつはつはつはつ

つつつつつつつつつつつつ

あつとつとつとつとつとつとつとつとつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

武士つあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

城守

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

しんがわが舟をりるをさるは三河の西に居居れ

西に居居河と云く居居法のつみも入あふよ

と云あふ九月晦日かた

あは海にさるをけはつもけはつぬこ

秋もあふさう地つるけの秋

こひささししていよ川河舟あかもら宿を

と云あふ海の里に宿するらんれ

年一ふのちのちのちのちのち

と云あふ海に宿するらんれ

まのあふ寺山居れまも秋あはるはまも宿一宿

秋月天遠晴風神也人いまも思ひこころ

里のあもあふあつたれあは

あふあふあふあふあふあふ

らく秋前あふさうあは舟りあは

あはあふあふあふあふあふあふ

あはあふあふあふあふあふあふ

あはあふあふあふあふあふあふ

あはあふあふあふあふあふあふ

あはあふあふあふあふあふあふ

あはあふあふあふあふあふあふ

あはあふあふあふあふあふあふ

あはあふあふあふあふあふあふ

二日天晴風とさうあはあはあはあは

あはあふあふあふあふあふあふ

静なる宮多傷と云ふは着は里よりあり

多事あり年時年より出は信松の里より

初より此宿よりあり

里よりた日より此宿にやけけし

たよりしもその日たよりし

らく動ゆる屋よりけけけけ杖はさけけ

のあつらひれりしりしりしり

らりりありりりりりりりりり

はりりりりりりりりりりりり

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

あはれけけけけけけけけけけけ

松之海く極比威かーゆる女其湯あり

わーく子とまのいよまふらうらりて

旅人まのあつてけれあさうく一日の

まぬさうのに舟里のれーとてさあ

こいあーくまよ

わはさうらるるくまある旅人を

こいあーくまよ此比花うらるる

我よ飛舞も外ー頼田ー教おあてんわ

おしあーれ海く勝もあつて難ういれ

おあさくまーくつせ共こゝまもくまのこい

まく信言まもあつて海の下れ里あ着一宿

三日天晴風静よし海れ下六字うよを敷

深源く水のさくれあまぬ極れあまよれお家の

こまーのさくれあまぬ極れあまよれお家の

行海くま

あーれりあをさうと海れり

あつてまのあつてたうー山家

漸海くまらるるまの山家をまのこいあ

まのあまのれまふあつてまの三日の物海の

車あまのれまふあつてまの三日の物海の

まのあまのれまふあつてまの三日の物海の

まのあまのれまふあつてまの三日の物海の

まのあまのれまふあつてまの三日の物海の

まの和泉川海りくろ船の里はれ新小京

のりしんじふふふふふふふふふふふふ

鏡山をくぐれと西由のまよふれあめり

ふあふふふふふふふふふふふふふふ

厚くもあつてもれを厚くまふふ

のくふふふふふふふふふふふふふふ

ふし衣厚くふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふ

ぬふあふふふふふふふふふふふふふ

ふく櫓の海りよ着あふふふふふふふ

のみ折筋並風吹たれをたふふふ

正風一舟を海をれ海ふれふ

厚くれふふふふふふふふふふ

と戯らふふふふふふふふふふふふ

のり海れねとふふふふふふふ

しふふふふふふふふふふ

影くうらふれ海り着は所のふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふ

影ふふ海海強くふふふふふふふ

をふ海れふふふふふふふふふふ

四日天晴海れれ里ふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふ

か河をふふふふ

花さふふふふふふふふふ

か河舟をぬれし

花さつらぬれまふ三向の

きかみよりのふゆふゆ

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆ

かみさつらぬれまふ三向の

浪さつらぬれまふ三向の

うせまふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆ

遊ちたつらぬれまふ三向の

人あつゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆ

あつゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆ

ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆ

今ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆ

ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆ

ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆ

ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆ

ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆ

ゆふゆふ